

大学等名 皇學館大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教育開発センター教育企画室会議

(責任者名) 筒井 琢磨

(役職名) 教育企画室長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教育開発センター教育企画室会議において、本プログラムの学科別の履修・修得状況の分析を実施し、改善点等を検討した。全学部共通科目として「統計学基礎」《データサイエンス入門》(令和4年度以前入学生対象)、「データサイエンス入門」(令和5年度入学生対象)を開講した。 統計学基礎 受講者数177名 単位修得者数146名(単位修得率82%) データサイエンス入門 受講者数645名 単位修得者数578名(単位修得率90%) ・必修科目であるデータサイエンス入門の単位修得率が9割にとどまったのは放棄者が多いためである。LMS(manaba)で掲示する履修上の注意を読まずに欠席扱いになった者が多いと考えられる。
学修成果	教育開発センター教育企画室会議において、成績分布状況の分析を実施した。「秀」「優」の全受講者に占める割合がかなり高い数値を示していることから、十分な学修成果をあげていることを確認した。また、毎回の授業で学生に50字以上の授業に関するコメントの提出を課している、全担当教員でコメントをチェックしている。ほとんどの学生は100字以上の文章を提出しているため、毎回の学修成果があがっていることを確認できている。
学生アンケート等を通じた学生の理解度	授業最終回に全履修者対象の学修成果評価アンケートを実施している。教育開発センター教育企画室会議で理解度の分析を行っている。 学生の理解度については項目1(この授業を受講して、第1部「社会におけるデータ・AI利活用」について理解できましたか。)、項目2(この授業を受講して、第2部「データリテラシー(データの扱い方、データの読み方)」について理解できましたか。)、項目3(この授業を受講して、第3部「データ・AI利活用における留意事項」について理解できましたか。))でいずれも「十分理解できた」「ある程度理解できた」が90%を超えているので、授業内容は適切であると判断できる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業最終回に全履修者対象の学修成果評価アンケートを実施している。教育開発センター教育企画室会議で他の学生への推奨度の分析を行っている。 他の学生への推奨度については項目11(この授業の受講を後輩等他の学生に勧めたいですか)で「勧めたい」「どちらかといえば勧めたい」を合わせた回答が95%以上を占めているため、他の学生への推奨度はかなり高いと評価することができる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和5年度から「データサイエンス入門」を全学部共通科目必修として開講した。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	修了者のみを対象とした調査は難しいため、必修化した学年が卒業する令和8年度以降に、就職先企業等に対するアンケート調査(卒業生が就職して3年目の企業・団体を対象。就職担当・教育開発センターが実施主体、令和2、4、5年度実施)で本教育プログラムに関する項目を追加できるように検討する。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	皇學館大学外部評価委員会(令和5年12月20日開催)で、外部評価委員から質問6件を含む本教育プログラムに関する意見を11件いただき、質問には当日または後日にすべて回答した。いただいた意見については教育開発センター教育企画室会議で共有し、本プログラムを改善していく際の参考としている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	毎回の授業で提出させているコメントに対して担当教員が分担してリプライしている。自学部学生へのリプライで自学部の専門性との関わりを示したり、最近話題になったニュース等を紹介して、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの楽しさや意義を伝える努力をしている。 教育開発センター教育企画室会議で学修成果評価アンケートの分析を行っている。項目4(この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ意義を理解できましたか)で「十分理解できた」「ある程度理解できた」を合わせた回答が97%~98%を占めていた。また、項目5(この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ楽しさを感じましたか)で「十分感じた」「ある程度感じた」を合わせた回答が96%~97%を占めていたので数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を十分理解していると評価できる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	教育開発センター教育企画室会議で学修成果評価アンケート結果を分析し、「分かりやすい」授業となるよう検討している。教材の適切性を確認するために項目6(この授業の講義動画(皇學館大学データサイエンスサイト)内容はわかりやすかったですか)、演習の適切性を確認するために項目7(この授業で、Excelを用いた演習をうまく進めることができましたか)を置き、回答状況を分析した。いずれも適切であると評価できる。 また、令和5年度は授業形態の適切性を確認するために項目8(この授業は対面授業でなく、オンライン授業(オンデマンド型授業)で実施しました。この授業方法についてあなたはどのように感じましたか)を置いた。令和5年度から学生から提出のあったコメントへのリプライを「振り返り動画」として公開しているが、この振り返り動画の適切性を確認するために項目9(この授業の振り返り動画(manabaコースニュース「第〇回に向けて」)は視聴しましたか)と項目10(この授業の振り返り動画(manabaコースニュース「第〇回に向けて」)はあなたが学習を進めるうえで参考になりましたか)を置いた。項目8、9、10とも肯定的な回答が多いため、授業形態についても振り返り動画についても適切であると評価できる。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教育開発センター教育企画室	
(責任者名) 筒井 琢磨	(役職名) 教育企画室長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>2年生以降に「データサイエンス副専攻」を申請した者が本プログラムの履修者として把握することができるため、現時点では不明である。令和6年4月に初めての申請期間を設けている。</p> <p>教育開発センター教育企画室会議において、本プログラムの履修・修得状況の分析を実施する予定である。改善点等を検討する。</p> <p>全学部共通科目として「データサイエンス入門」を開講した。</p> <p>データサイエンス入門 受講者数645名 単位修得者数578名(単位修得率90%)</p> <p>本プログラムを構成する文学部専門科目、教育学部専門科目、現代日本社会学部専門科目のうち、教育学部専門科目の「代数学基礎」「代数学序論」は令和5年度に開講した。</p> <p>代数学基礎 受講者数20名 単位修得者数20名(単位修得率100%)</p> <p>代数学序論 受講者数25名 単位修得者数25名(単位修得率100%)</p> <p>文学部専門科目と現代日本社会学部専門科目は未開講である(令和6年度より開講)。</p>
学修成果	<p>教育開発センター教育企画室会議において、成績分布状況の分析を実施した。「秀」「優」の全受講者に占める割合がかなり高い数値を示していることから、十分な学修成果をあげていることを確認した。</p> <p>「データサイエンス入門」では毎回の授業で学生に50字以上の授業に関するコメントの提出を課して、全担当教員でコメントをチェックしている。ほとんどの学生は100字以上の文章を提出しているため、毎回の学修成果があがっていることを確認できている。</p> <p>教育開発センター教育企画室会議ではまた、学修成果評価アンケートの分析も実施した。理解度など肯定的な回答が多いことを確認した。</p> <p>「代数学基礎」と「代数学序論」では自由記述項目の分析も行い、高い学修成果を上げていることを確認した。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>授業最終回に全履修者対象の学修成果評価アンケートを実施して、教育開発センター教育企画室会議で理解度の分析を行っている。</p> <p>学生の内容の理解度について、「データサイエンス入門」では、項目1(この授業を受講して、第1部「社会におけるデータ・AI利活用」について理解できたと思いますか。)、項目2(この授業を受講して、第2部「データリテラシー(データの扱い方、データの読み方)」について理解できたと思いますか。)、項目3(この授業を受講して、第3部「データ・AI利活用における留意事項」について理解できたと思いますか)でいずれも「十分理解できた」「ある程度理解できた」が90%を超えているので、授業内容は十分適切であると判断できる。「代数学基礎」と「代数学序論」では、項目1(この授業の内容が理解できたと思いますか)でいずれも「十分理解できた」「ある程度理解できた」を合わせた回答が85%~95%であるので、授業内容は適切であると判断できる。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>授業最終回に全履修者対象の学修成果評価アンケートを実施して、教育開発センター教育企画室会議で他の学生への推奨度の分析を行っている。</p> <p>他の学生への推奨度について「データサイエンス入門」では、項目11(この授業の受講を後輩等他の学生に勧めたいですか)で「勧めたい」「どちらかといえば勧めたい」を合わせた回答が95%以上を占めているため、他の学生への推奨度はかなり高いと評価することができる。「代数学基礎」と「代数学序論」でも、項目4(この授業の受講を後輩等他の学生に勧めたいですか)で「勧めたい」「どちらかといえば勧めたい」を合わせた回答が95%以上を占めているため、他の学生への推奨度はかなり高いと評価することができる。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本プログラムは「データサイエンス副専攻」として設置しているため、全学の履修・修学指導の時期に他の副専攻と同様に学生への周知を図る予定である。また、本プログラムの概要をまとめた履修案内を作成し、履修・修学指導時に配付する予定である(紙とWeb)。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>修了者のみを対象とした調査は難しいため、必修化した学年が卒業する令和8年度以降に、就職先企業等に対するアンケート調査(卒業生が就職して3年目の企業・団体を対象。就職担当・教育開発センターが実施主体、令和2、4、5年度実施)で本教育プログラムに関する項目を追加できるように検討する。</p> <p>皇學館大学外部評価委員会(令和5年12月20日開催)で、外部評価委員から質問6件を含む本教育プログラムに関する意見を11件いただき、質問には当日または後日にすべて回答した。いただいた意見については教育開発センター教育企画室会議で共有し、本プログラムを改善している際の参考としている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>教育開発センター教育企画室会議で学修成果評価アンケートの分析を行っている。</p> <p>「データサイエンス入門」では、項目4(この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ意義を理解できたと思いますか)で「十分理解できた」「ある程度理解できた」を合わせた回答が97%~98%を占めていた。また、項目5(この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ楽しさを感じましたか)で「十分感じた」「ある程度感じた」を合わせた回答が96%~97%を占めていたので数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を十分理解していると評価できる。</p> <p>「代数学基礎」と「代数学序論」では、項目2(この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ意義を理解できたと思いますか)で「十分理解できた」「ある程度理解できた」を合わせた回答がそれぞれ80%、57%だった。また、項目3(この授業を通じて、データサイエンス・AIを学ぶ楽しさを感じましたか)で「十分感じた」「ある程度感じた」を合わせた回答がそれぞれ80%、65%だった。「データサイエンス入門」と比べると低い数値であった。本プログラムを構成する全学部共通科目はモデルカリキュラムを踏まえたものなので、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることを十分意識して設置している。一方で、本プログラムを構成する各学部専門科目はプログラムを履修した学生が自らの専門分野等において数理・データサイエンス・AIを活用し、より実践的な応用基礎力を修得するために設置している。先の述べたとおり、各学部専門科目として開講した「代数学基礎」、「代数学序論」は「データサイエンス入門」と比較するとアンケートの結果がそれほど高くなかった。履修指導時での説明を徹底するなど、改善を進めることを検討していきたい。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>教育開発センター教育企画室会議で学修成果評価アンケート結果を分析し、「分かりやすい」授業となるよう検討している。</p> <p>「データサイエンス入門」では、教材の適切性を確認するために項目6(この授業の講義動画(皇學館大学データサイエンスサイト)内容はわかりやすかったですか)、演習の適切性を確認するために項目7(この授業で、Excelを用いた演習をうまく進めることができましたか)を置き、回答状況を分析した。いずれも適切であると評価できる。</p> <p>また、令和5年度は授業形態の適切性を確認するために項目8(この授業は対面授業でなく、オンライン授業(オンデマンド型授業)で実施しました。この授業方法についてあなたはどのように感じましたか)を置いた。令和5年度から学生から提出のあったコメントへのリプライを「振り返り動画」として公開しているが、この振り返り動画の適切性を確認するために項目9(この授業の振り返り動画(manabaコースニュース「第〇回に向けて」)は視聴しましたか)と項目10(この授業の振り返り動画(manabaコースニュース「第〇回に向けて」)はあなたが学習を進めるうえで参考になりましたか)を置いた。項目8、9、10とも肯定的な回答が多いため、授業形態についても振り返り動画についても適切であると評価できる。</p> <p>教育開発センター教育企画室会議にて学修成果評価アンケートや外部評価委員からの意見を参考にして、本プログラムが学生にとって「分かりやすい」授業とすることを継続して検討していく予定である。</p>